Rapture of the Church

1 Thessalonians 4:13-5:10

Pat Zukeran

Intro

# The Blessed Hope of the Rapture

## 4:13-15

## Application – Be Hopeful

# The Picture of the Rapture

## 4:15-18

## Application – Be Informed

# The Time of the Rapture

## 5:1-10

## Application – Be Ready

Conclusion

教会の携挙

1テサロニケ4:13-5:10

Intro

* この偉大な出来事を理解するためには、黙示録で起こる出来事を理解する必要がある。
* 終末の時代のタイムラインがここにある。
* 私たちは今、教会時代にいる。教会時代は、教会がこの世から連れ出される携挙によって終わります。

I.携挙の祝福された希望

A.4:13-15

1.テサロニケの信徒たちは、主が再臨される前に死んだ信徒について疑問を抱いていた。

2.パウロは、私たちには他にはない希望があり、悲しむことはあっても、希望のない人のようにはならないと言う。

3.イエスはいつか教会のために再臨され、再臨前に死んだ人々を復活させる。

4.この希望は、キリストの復活のゆえに確かなものである。

a)復活の証拠は決して破られていない。

b)私は、私よりはるかに知的な他の弁明者たちと同様に、この問題につ いて議論してきた。

B.他にはない希望

1.無神論者には永遠の希望はない

2.仏教徒やニューエイジの「希望」は、実際には空虚な希望である。

3.私とルカは、重度の身体的奇形を持って生まれた赤ん坊について議論している。

a)無神論者として、ルカは希望のメッセージを提供することができなかった。

b) クリスチャンはキリストの復活によって本当の希望のメッセージを持っている。

C.応用-希望に満ちよう

1.この世の物質的なものでなく、キリストのメッセージの上に希望を築こう

II.携挙の絵

A.4:15-18「15私たちは主のみことばのとおりに言いますが、主が再び来られるときまで生き残っている私たちが、死んでいる人々に優先するようなことは決してありません。16主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、17次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らと一緒に雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。この方にして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。」

1.主イエスは天から来られる

a)その来臨が描写されている

b) 御使いのかしらの叫び声がある

c)神のラッパが吹き鳴らされる

2.「キリストにある死者が、まず初めによみがえり」(4:16)

a)死んだ人の魂は、現在、主と共に天にいる。

b)この日、死者の肉体は栄光の状態で復活し、魂と霊と一つになる。

3.生きている私たちも栄光へと変えられる

a)「一挙に引き上げられ」ギリシャ語はハルパゾ：

b)「新約聖書完全単語研究辞典」によると、このハルパゾという単語は、「力ずくで捕らえる、奪う」という意味である。

(1)公然の暴力行為、突然のひったくりを意味する。

(2)強引に襲いかかる、奪い取る、自分のものにするという意味で使われる(マタイ13:19; ヨハネ6:15; 10:12, 28, 29; 使徒23:10; ユダ1:23)。

(3)特に携挙について使われる（使徒8:39、2コリ12:2、4、1テサ4:17、黙示録12:5）。

4.このことは、「一瞬のうちに」起こる

A. 1コリント15:51-2「聞きなさい。私はあなたがたにおくぎを告げましょう。私たちは皆が眠ってしまうのではなく、みな変えられるのです。終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。」

B.アロハ・プレグナンシー・ファンドレイザーでの母親の証言

C.人生の応用 -正しい情報を持つ

1.パウロは、キリストを信じるすべての人を待ち受ける大きな希望について、できるだけ多くのことを知ってほしいと願っている。

2.携挙について知れば知るほど、あなたの希望は大きくなり、キリストにあるあなたの召命にふさわしい人生を送ることができます。

III.携挙の時期

A.5:1-10大患難の前

1.テサロニケの人々は、携挙がいつ行われるのかについて疑問を持っていた。携挙を逃してしまったと思っている者もいた。

2.携挙の時期については、7年の艱難時代の前、艱難時代の中ごろ、艱難時代の終わりなど、いくつかの見解がある。

3.私は、大艱難の前に携挙が起こることを示す証拠があると信じている。

4.艱難前携挙の理由

a)5:2には、「夜中の盗人のように来る」、と書いてある。

(1)盗人が突然やって来るように、携挙も突然やって来る。(

2)携挙が大艱難時代の半ばか終わりに来るなら、キリストがいつ来られるかが分かる。

b)5:3には、「人々が『平和だ。安全だ。』と言っているそのようなときに、」とある。

(1)大艱難時代には、神の怒りが地上に解き放たれ、かつて見たことのない規模の世界的な大災害が起こる。

(2)人々は「平和と安全」とは言わなくなる。

c)5:9に「神は、私たちが御怒りに合うようにお定めになったのではなく、」と書いてある。

(1)艱難時代、世界は神からの御怒りに会う

(2)ヨハネの黙示録6:16-17

B.艱難時代の夢

C.応用-備えよ

1.絶望の中に生きるのではなく、希望を持って生きる

2. 永遠にとって本当に大切なもののために生きる。